# Management Club Report

Jun.2014/Vol.138

## Monthly Opinion ≪医療安全は差異化要因≫

5 月 18 日の読売新聞『歯を削る機器７割使い回し』報道はその後も何度か続報が流され、歯科界に少なからぬ動揺をもたらしているようです。

院内感染防止対策の重要性は以前から唱えられ、相応の対策がとられてきたと思っていましたのに、新聞報道によりますと、調査対象の 70%と、かなりの歯科医院でその対策は有名無実化していたようです。

数年前に明るみに出た名門料亭での食材使い回し事件には開いた口がふさがりませんでしたが、同じ“使い回し”でも今回の“使い回し”は健康被害という点からみてもっと深刻に捉えられると思います。

『交通安全』『食の安全』『医療安全』は生命を脅かす問題であるだけに、安全に対する備えについて私たちは相当に神経を立てなくてはならない時代に入りました。これも社会の進歩や豊かさの故でしょう。

かつての日本でもそうでしたが、自然の中で生きているような発展途上国など社会全体が貧しいところではさして問題にならない行為が、現代の日本など先進諸国においては『安全性』という観点で問題視されるようになりました。豊かさの進行と共にチェック項目が細分化され、より細かい点検を受けるようになったことで起きてきた問題と言えます。

より高度で精密な安全は一体誰が守るのか？その費用は誰が負担するのか？そのあたりの根本的な問題を解決しておかなくてはならないように思います。今月は『医療安全』のあり方について考えてみたいと思います。

## 1 読売新聞の報道が大きな波紋を広げる

### 読売新聞の報道に反応して

多くの歯科医院でハンドピースを滅菌せずに使いまわしている実態が明らかになった。滅菌しない理由としてそれらの歯科医があげるのが、費用の高さだ。ハンドピースは１本約 20 万円。滅菌には１回 30 分程度はかかるため、患者ごとに交換するには少なくとも倍の本数を揃えなくてはならない。埼玉県草加市のある歯科医院では、ハンドピースを 120 本そろえ、午前と午後で滅菌を３回ずつ行っている。院長は「滅菌に手間がかかる分、歯科衛生士や歯科助手を多